

製品名: 嗅覚受容体 51F2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15247**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	37kDa

抗原情報

遺伝子名	OR51F2
別名	OR51F2; Olfactory receptor 51F2; Olfactory receptor OR11-23
遺伝子 ID	119694.0
SwissProt ID	Q8NH61
免疫原	抗血清はヒト OR51F2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 292-341

背景

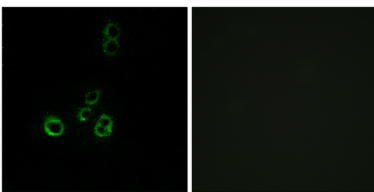
嗅覚受容体は鼻腔内の嗅覚分子と相互作用し、嗅覚の知覚を誘発する神経反応を惹起します。嗅覚受容体タンパク質は、単一のコーディングエクソン遺伝子から生じる G タンパク質共役受容体 (GPCR) の大規模なファミリーに属します。嗅覚受容体は、多くの神経

伝達物質受容体やホルモン受容体と7つの膜貫通ドメイン構造を共有し、嗅覚シグナルの認識とGタンパク質を介した伝達を担っています。嗅覚受容体遺伝子ファミリーはゲノム中で最大のファミリーです。この生物の嗅覚受容体遺伝子およびタンパク質に割り当てられた命名法は、他の生物とは独立しています。[RefSeq 提供、2008年7月]、注意: Met-1とMet-13のどちらが開始因子であるかは不明です。機能: 嗅覚受容体、類似性: Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属します。

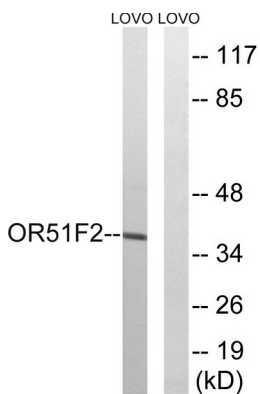
研究分野

嗅覚伝達;

画像データ



OR51F2抗体を用いたMCF7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



OR51F2抗体を用いたLOVO細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



嗅覚受容体51F2ポリクローナル抗体を用いたK562細胞のウェスタンブロット解析